

# 第1章 第3期宮前区区民会議からの提言

## 1 提案の概要

### 当面の目標

宮前区の基礎力アップ！地域社会の土壌づくりをしよう！

- ・区民が「宮前区」を意識する機会を多くし、地元への愛着や帰属意識をつくる
- ・地域社会と接点を持ち、地域社会に参加する人たちを増やす

### ターゲット

①宮前区に住んでいる or 長年住んできたが、これまでは特に地域社会と関わらないで来た人たち



例) 会社人間、シニア世代

②地縁・血縁があるわけではなく、田園都市線のイメージに惹かれ、なんとなく宮前区を選んだ人たち



例) 子育て世代、田園都市線マダム?

③核家族や共働きなどで、宮前区は単に寝るだけになってしまっている人たち



例) 川崎都民

④宮前区に引っ越して来たばかりの人たち



例) 転入者、子育て世代

### アプローチ

まずは「宮前区」に対してポジティブな気持ちを持ってもらおう

- ・「宮前区での生活の楽しみ方」、「このまちとの上手な付き合い方」などを打ち出し、「楽しそう」「面白そう」「好奇心が湧く」「共感できる」といったポジティブな感情を起こすことで、興味を持ってもらおう！
- ・そして、実際に宮前区での生活を楽しんだり、それを支えている「人」と交流したりすることで、無理なく自然と地域社会に入って来てもらおう！

## 活力づくり部会からの提案

宮前区の特徴である坂道を活かし、まちの魅力づくりや健康づくりなどの活力づくりにつなげるための取組を検討しました。

### 提案

- ①宮前区の坂道を知ってもらおう
- ②坂道を使ったイベントをしよう



#### ▲取り組むべき課題

- × 区内の由緒ある坂道の存在や場所が知られていない
- × 坂道を活用したイベントがない
- × 健康づくりにつながるなどの坂道の価値が知られていない

#### ★目標

- 坂道を活用して・・・
- ◎ 地域への参加を促そう
  - ◎ 宮前区に愛着を持ってもらおう
  - ◎ 健康な体づくりをしよう

#### 【具体的な実施内容】

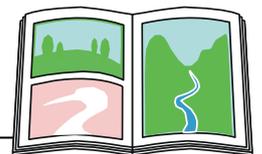
①	(仮称)みやまえ坂道ウォークの作成	坂道の魅力を広く紹介するとともに、坂道の起伏を利用した健康づくりについての情報をまとめたガイドブックを作成します
②	坂道ウォーキングイベントの開催	区内坂道への興味を引き、楽しんでもらうとともに、日常的な健康づくりにつなげるため、坂道を活用したイベントを開催します

## 地参知笑部会からの提案

幅広い意味で「地」域の産物を活かし、地域の魅力を「知」り、地域社会への「参」加につなげ、「笑」顔の広がるまちにしていくための取組を検討しました。

### 提案

- ①宮前区の魅力や楽しみ方を発信しよう
- ②宮前区の地域情報を戦略的に発信しよう



#### ▲取り組むべき課題

- × 地域になじみが薄く、「住む」だけの区民が多い
- × 地域コミュニティに参加し、「暮らす」ための情報が不足
- × これまでの情報発信のやり方では区民に伝わらない

#### ★目標

- 効果的な情報発信を通じて・・・
- ◎宮前区の魅力やまちの楽しみ方をもっと知ってもらう
  - ◎宮前区に愛着を持ってもらい、地域コミュニティへの参加を促そう



#### 【具体的な実施内容】

①	地域コミュニティへの参加を促す雑誌の作成	転入者や川崎都民が、興味を持って読んで実際に参加してみたくなるような、魅力的でワクワク感のある冊子を作成します
②	「みやまえ情報サポーターズ」を結成	さまざまなメディアを使いながら、宮前区の魅力的な地域情報を区民の目線から継続的に発信する仕組みをつくります

## 2 提案の詳細

### 1) 坂道を活かした地域の活力づくりに関する提案

#### 1 提案の背景

##### (1) 宮前区を特徴づける坂道

宮前区は、川崎市北西部に位置し（右図）、なだらかな丘の続く多摩丘陵の東の端にあって起伏に富んだ地形が特徴となっています。

そのため、通勤・通学や買い物、散歩などの日常生活で、必ずといっていいほど坂道を通らなければならず、坂道は宮前区での暮らしに密接に関わっているといえます。

宮前区では、平成 11 年度から 12 年度にかけて、18 箇所の坂道を選び、その愛称を区民から募集しました。そして、それぞれの坂道に名称や成り立ちを示した標識を建てました（下写真）。

この他、古くからある坂道を合わせると、38 箇所に名称が付いていますが、名称のない坂道も多数あります。



出典：川崎市緑の基本計画  
(H20 年 3 月)を加工

#### ◆坂道の標識

【庚申坂】



【富士見坂】



【八幡坂】



##### (2) 坂道をポジティブに捉える動き

坂道は一般的に、登りは疲れ下りは危なく、歩行や自転車での移動に際して妨げになるなどマイナスイメージが持たれます。そのため坂道は、尾道市や長崎市などを除いて、これまでは地域資源としての認識は十分ではありませんでした。また、高齢化の進展を考えると、マイナスイメージがさらに強くなります。

こうしたマイナスの地域資源を逆にポジティブに捉え、うまく利用している地域があります。例えば、同じく坂道の多い座間市では、座間青年会議所が中心となって、平成 22 年から



第1回ZAMA 坂道  
マラソンのパンフレット

「ZAMA 坂道マラソン」を開催しています。試行錯誤しながら運営しているのですが、300人以上の参加者が集まり、盛り上がりを見せています。

このように、日常生活にマイナスの影響を与えがちな坂道も、見方を変えれば、プラスの効果をもたらす地域資源になることがわかります。

### (3) 高齢化と健康づくりへの関心

宮前区の高齢化率は平成 23 年度現在で約 15% ですが、5 年後には約 20%になることが予測されています。また、単身高齢者が増加し、自宅に引きこもりがちになることが懸念されています。

宮前区では、高齢者の健康維持・増進、介護予防などのため、地域住民が主体の公園体操の普及に努めています。平成 19 年度に 23 会場だった公園体操（上写真）が、平成 23 年 10 月時点では 38 会場に増え、高齢者の健康づくりへの関心の高まりが表れています。

また、中高年の生活習慣病やメタボリックシンドロームの予防に向けて、ウォーキングやジョギングなどにより日頃から体を動かす習慣を身につけておく必要があります。



## 2 提案

活力づくり部会では、宮前区の特徴ともいえる坂道を活かし、まちの魅力づくりや健康づくりなどの、地域の活力づくりにつなげるための取組を検討し、2つの提案をまとめました。

### 取組の全体像

#### ■提案

- ①宮前区の坂道を知ってもらおう
- ②坂道を使ったイベントをしよう

#### ▲取り組むべき課題

- × 区内の由緒ある坂道の存在や場所が知られていない
- × 坂道を活用したイベントがない
- × 健康づくりにつながるなどの坂道の価値が知られていない

#### ★目標

- 坂道を活用して・・・
- ◎ 地域への参加を促そう
- ◎ 宮前区に愛着を持ってもらおう
- ◎ 健康な体づくりをしよう

### 3 提案の具体的な内容

#### 提案①：宮前区の坂道を知ってもらおう

##### 実施内容

##### ◆「みやまえ坂道ウォーク」の作成◆

歴史的由緒のある坂道や美しい並木道がある坂道など、坂道の魅力を広く紹介するとともに、坂道の起伏を利用した健康づくりについての情報をまとめたガイドブック、「みやまえ坂道ウォーク」（以下「坂道ウォーク」）を作成します。

##### 【趣旨・目的】

- ・ 宮前区の特徴である坂道は、標識のある 18 の坂道が宮前区の地域ポータルサイト「みやまぼーたろう」の特集「坂道は続くよ、どこまでも」で紹介されるなど、一定の PR はなされているものの、地域資源として積極的に活用するまでには至っていません。
- ・ 地域資源として坂道が認識されるには、「どこに 18 の坂道があるか」、「どのように回って行けば良いか」、「どのような魅力があるか」、「どのくらいの距離・時間になるか」、「どのように健康的づくりにつなげるか」などの情報を、包括的かつシンプルに発信していくことが必要となります。
- ・ 坂道ウォークは、こうした情報を発信し、日常生活や余暇に活用してもらい、坂道の良さを知ってもらうという効果が期待されます。

##### 【「坂道ウォーク」の内容】 ※冊子のイメージはP47 参照

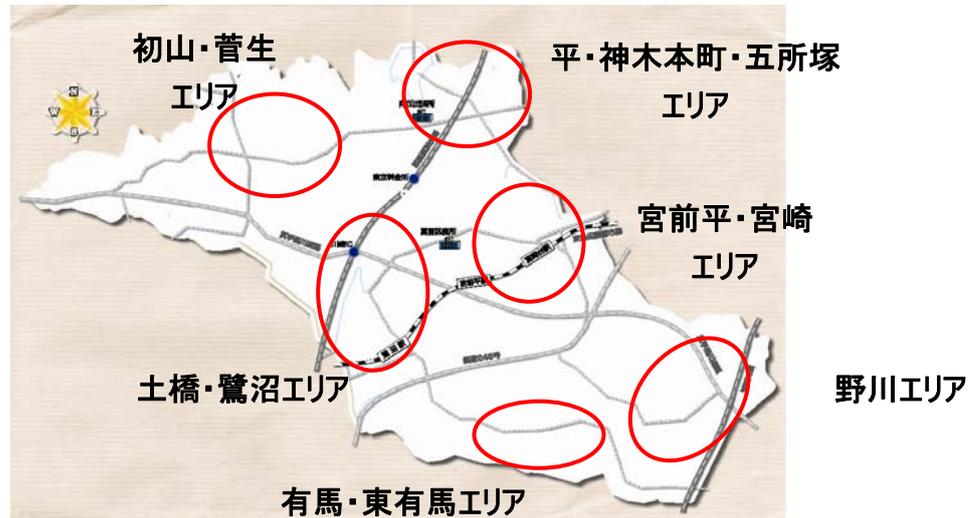
- ・ 標識のある 18 の坂道を通るウォーキングコースを 6 コース紹介（次ページ図）。1 コース 2 時間程度で歩けるようにします。
- ・ 地図や解説に加え、次のようなウォーキングに必要な情報、楽しく歩くための情報を簡潔にまとめます。

##### 【掲載情報】

坂道データ（歩数、長さ、高低差）、四季折々の自然や景色、歴史、公園・トイレ・休めるところなど

- ・ 坂道の歩き方や健康づくりに関する情報（膝の曲げ具合、呼吸法、消費カロリー計算方法など）
- ・ 坂道ウォーキングの準備に関する情報（ウォーキング時の服装や持ち物、準備体操など）
- ・ スタンプコーナーなど、日常的に坂道に親しめるような仕掛けのページ

6 コースの  
対象エリア



【作成主体】

- ・平成 23 年 9 月に活力づくり部会委員の有志によるワーキンググループを立ち上げ、「坂道ウォーク」のたたき台を作成しました。
- ・平成 24 年度は、これを基に、活力づくり部会にいた委員が関わりながら、「坂道ウォーク」を完成させます。

【完成時期】

- ・完成は平成 24 年夏ごろを目標とし、区制 30 周年に合わせて出版します。

【「坂道ウォーク」の PR】

- ・「坂道ウォーク」を普及させ、多くの区民に坂道ウォーキングのイベントに参加してもらうため、効果的に PR を実施する必要があります。

- ・区内公共施設で坂道ウォークを配布するのはもちろんのこと、宮前区在住の著名人や川崎フロンターレなどの協力を得て、坂道ウォーキングのメリットを PR してもらいます。
- ・「みやまえぽーたろう」やソーシャルメディア、マスコミを積極的に活用したりするなど、多様なメディアを活用した PR を行います。※なお、地参知笑部会で提案された、区の情報発信を担う「みやまえ情報サポーターズ」の実践活動の一環として、多様なメディアを活用した情報発信を位置づけています。

【今後の課題】

- ・「坂道ウォーク」では、上記の 6 つのエリアでコースを作成しましたが、坂道の価値への認識の広まりに応じて、それ以外のエリアの由緒ある坂道や魅力的な景観の坂道なども、地域資源として活用していくことが課題となります。
- ・坂道の紹介が中心であることから、「坂道ウォーク」で紹介できる地域資源は限られています。ウォーキング中に触れることのできる歴史的な資源や、宮前区の魅力を知ってもらう方法の検討が課題となります。

## 提案②：坂道を使ったイベントをしよう！

### 実施内容

#### ◆坂道ウォーキングイベントの開催◆

宮前区の坂道への興味を引き、楽しんでもらうとともに、坂道の上下りで足腰を鍛えて日常的な健康づくりにつなげるために、坂道を活用した「坂道ウォーキングイベント」を開催します。

#### 【趣旨・目的】

- ・坂道を活用したウォーキングイベントを開催し、実際に身近にある坂道を歩いてもらうことで、地域の歴史や残されている自然、ウォーキングの爽快感など、地域資源としての価値を広く知ってもらいます。
- ・坂道ウォーキングは、足腰に負荷がかかるため、平地歩行に比べて筋力トレーニングとしての効果があります。一方で、体に負荷がかかる分、正しい歩き方を身に付け、無理のないペースで歩くことが大切です。イベントを通じて、健康づくりを意識した坂道ウォーキングの普及・啓発を進めていきます。
- ・多くの方が参加して楽しめるイベントを開催することによって、参加者が日常的なウォーキング活動を楽しむ契機になるとともに、地域の盛り上がりや一体感につながり、地域コミュニティの活性化につながることが期待できます。



出典：目黒区「坂道ウォーキングのすすめ」（H22年3月）

#### 【実施主体】

- ・坂道ウォーキングイベントを、単発の娯楽として終わらせるのではなく、地域を見つめ直してもらい、コミュニティの活性化につなげることが重要です。
- ・そのためには、地域の団体や区民が主体となって坂道ウォーキングイベントを運営し、それを区役所が支援する「協働」の形態で実施することが、地域の底力のアップにつながります。

#### 【実施方法】

- ・既存の団体が実施しているウォーキング講座やイベントで、「坂道ウォーク」を活用してもらうなど、既存の取組との連携を図ることが必要です。
- ・地域と区役所の協働による事業実施手法として、「宮前区地域課題の解決を図る事業提案制度」の活用も考えられます。

この制度は、地域で抱える課題とその解決方法について、市民活動団体などから広く提案を募集した後、採択された提案を実際に提案した団体が区役

所と協働して実施する制度です。

#### 【実施内容】

区民会議では、実施内容として次のようなアイデアが出されました。

##### ●坂道ウォーキング大会

四季を感じられる、また、野菜、歴史、景色の良い場所など地域資源のテーマを設定するなど、宮前区の良いところに触れることができるウォーキングイベント

##### ●坂道スタンプラリー

いくつかの坂道を回ると1つの文字になる、写真クイズで同じ坂道風景の写真を撮るなどのクイズ形式

##### ●坂道健康教室

坂道の歩き方、準備運動や整理体操、消費カロリーの計算方法等の健康づくりに関した情報を実践しながら学べる教室

##### ◆イベントの企画や運営上の工夫として・・・

一人でも気楽に参加できる、親子で楽しめる、自分のペースで歩ける、主催者を変えることでマンネリ化とスタッフの参加疲れを防ぐ、完歩者への景品など達成感を得られるようにする、スマートフォン、QRコード、擦り絵の活用など

#### (留意事項)

##### ・イベントの規模

最初から、数百人が一斉にスタートするような大規模なイベントの開催を目指すのは、安全確保や参加者の誘導などの運営上、難しい面もあります。

最初は参加者をスタート時間や日程で分散させたり、期間を広く設定したスタンプラリーを実施したりしながら実績を重ね、ノウハウの蓄積や区民の坂道への理解が浸透した段階で、大規模なイベント（発展形としての坂道マラソン大会も含む）の開催を目指すことが現実的であると考えられます。

##### ・ウォーキングに慣れていない人への配慮

坂道を上るときに必要なエネルギーは、平地の約2倍です。無理な坂道ウォーキングは、体への負荷が大きくなります。このため、ウォーキングに慣れていない人や体力に自信のない人でも取り組めるようにする配慮が必要となります。

こうした人でも気軽に参加できるイベントやスタンプラリーを企画するとともに、「坂道ウォーク」に、正しいウォーキング方法や目標心拍数などの技術的な情報、坂道の高低差や休憩場所の情報を掲載することが求められます。

#### 【開催頻度】

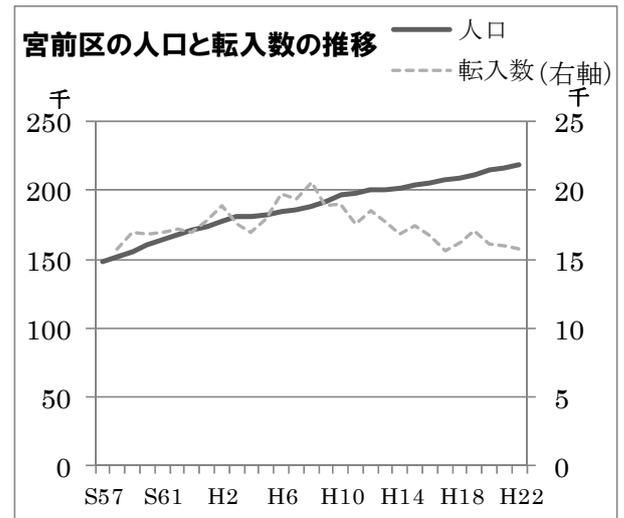
イベントは、年1、2回程度の実施を想定します。

## 2) コミュニティへの参加を促す雑誌と情報戦略に関する提案

### 1 背景と課題

#### (1) 転出入者や川崎都民が多い宮前区

- ・宮前区では毎年 7 千世帯(約 1 万 6 千人)が転入していますが、これらの世帯は地域に知り合いがいない場合が多く、孤立しがちです。学齢児のいる世帯が子どもを通じて地域に関わる機会を持つのに対し、特に乳幼児を抱える世帯や高齢者世帯では、地域に関わるきっかけが少なく、転入後も孤立が続く恐れがあります。
- ・宮前区では平日は都内に通勤・通学し、休日は東京や横浜など宮前区以外を買い物やリクリエーションの場とする「川崎都民」が多くなっています。これらの層は宮前区への関心が低いため情報が届きにくく、宮前区に存在する魅力的な地域資源を認識していない状況にあります。
- ・こうした、地域で孤立した人や宮前区に「住む」だけの人の増加が、地域コミュニティ希薄化の一因になっていると考えられます。



#### (2) 宮前区で「暮らす」ための情報提供が必要

- ・このような状況から、地域へのなじみの薄い人に、宮前区で単に「住む」だけでなく、地域との関わりを持ったり、宮前区の産物や行事を楽しんだりできるような、「暮らす」ための情報提供を積極的に行うことが課題となっています。
- ・これまでも区・市や民間企業が、地域情報を紹介するパンフレットやマップを発行してきましたが、内容が似通っていたり、興味を引くような記事や紙面構成になっていなかったりするケースがありました。
- ・インターネットの情報発信については、「みやまえぽーたろう」がありますが、区民に十分に認知されていない面があります。また、若者を中心に、さまざまなソーシャルメディアを使って、口コミ情報を交換したり、同じ関心を持つ人同士でつながり合ったりする動きが広がっています。
- ・今後は、転入者や川崎都民と言われる人たちに、宮前区で「暮らす」ためのわかりやすい情報を、紙媒体やインターネット等を組み合わせて、さまざまなチャンネルから効果的に伝達していく必要があります。

(3) 宮前区に愛着を持ち、地域への参加を促すコンテンツが必要

- ・ 情報提供においては、「送り手」からの視点で地域情報を一方的に流すだけでは、情報に対する興味は持ってもらえず、そもそも情報にアクセスしてもらえないかも知れません。こうした従来型の手法の延長では、地域での孤立や宮前区への無関心といった問題の解決はあまり期待できません。
- ・ これからは、情報を受ける側の視点で魅力的なコンテンツを作成していくことが大切です。そのためには、これまで「受け手」であった人たちに、情報提供のコンテンツをつくる過程に参加してもらい、さらに、そのコンテンツを見た人たちに地域への参加を促す仕掛けを盛り込むなど、さまざまな工夫をしていく必要があります。

## 2 提案

地参知笑部会では、幅広い意味で「地」域の産物を活かし、地域の魅力を「知」り、地域社会への「参」加につなげ、「笑」顔の広がるまちにしていくための取組を検討し、2つの提案をまとめました。

### 取組の全体像

#### ■提案

- ①宮前区の魅力や楽しみ方を発信しよう
- ②宮前区の地域情報を戦略的に発信しよう

#### ▲取り組むべき課題

- × 地域になじみが薄く、「住む」だけの区民が多い
- × 地域コミュニティに参加し、「暮らす」ための情報が不足
- × これまでの情報発信のやり方では区民に伝わらない

#### ★目標

- 効果的な情報発信を通じて・・・
- ◎宮前区の魅力やまちの楽しみ方をもっと知ってもらおう
  - ◎宮前区に愛着を持ってもらい、地域コミュニティへの参加を促す

### 3 提案の具体的な内容

提案①：宮前区の魅力や楽しみ方を発信しよう

#### 実施内容

#### ◆地域コミュニティへの参加を促す雑誌の作成◆

転入者や川崎都民が、興味を持って読んで実際に参加してみたいくなるような、魅力的でわくわく感のある雑誌を作成します。

#### 【趣旨・目的】

- ・宮前区になじみの薄い区民（特に新住民や川崎都民など）をターゲットに、宮前区の魅力（モノ・場所・活動・人）やまちの楽しみ方を紹介することにより、宮前区に愛着を持ち、地域への参加を促すことを目的に制作します。
- ・インターネットが普及した現在においても、紙媒体による情報は年代を問わずに受け入れられる情報媒体であるため、この雑誌を地域情報発信の第1のステップとして位置づけます。

#### 【雑誌作成主体】

- ・区民を募り、地域情報を発掘・取材・記事化して作り上げていきます。
- ・しかし、こうした雑誌作りのノウハウを持つ区民は限られていますし、限られた人に依存しては、情報発信の裾野が広がりません。そのため、人材育成を図るため、市民館と区役所が連携した「みやまえ情報サポーターズ養成講座」を開設し、その実践プログラムの一環として雑誌を作成していきます。※講座プログラムはP53、54 参照

#### 【掲載する情報】

- ・雑誌のコンセプトは、次のとおりです。
  - ①コミュニティへの参加を促すものとする
  - ②項目ごとにターゲットとなる読者を明確にする
    - ・転入者や川崎都民など、情報が届きにくい層
    - ・高齢者や子育て世代などの世代別などの切り口
  - ③個々人がほしい情報をわかりやすく伝える
    - ・ガイドブックのガイドブック的なイメージ
    - ・10分程度で一通り読めるくらいのボリューム
    - ・顔の見える親しみやすいものにする
    - ・読み物としても面白いものとする
- ・コンセプトを基に、区民会議でイメージをまとめました。これをベースに、作成を担う「みやまえ情報サポーターズ養成講座」の講座参加者のアイデアを取

り入れながら作り上げていきます。

### コンテンツのイメージ

#### 1 世代別レポート

地域に参加している世代別の区民を取材したり、様々なことを体験してもらい、そのレポートを記事にして掲載します。

- ①中高生・大学生
- ②若い（子育て）世代
- ③働き世代
- ④高齢世代

#### 2 体験できるページ

- ・いちご狩りやお祭りの時の神輿担ぎ等、区内で誰でも体験できるイベント等の情報を掲載します。体験を通して、その土地となじむことができ、地域とのつながりのきっかけになるような内容とします。
- ・町会・自治会と関わるきっかけとなったり、市民館等での学習の機会を通じて知り合い・仲間をつくったりするような視点も考えられます。

#### 3 ゲーム等

- ・スタンプラリーや謎解きゲーム等、単に読むだけでなく気軽に参加できる内容を掲載します。  
⇒実際にスタンプや表示板を設置するのは、コストや管理上の課題が生じることから、謎解きゲームが良いと考えられます。例えば、影向寺に行かないと解けないようなクイズを、講座参加者が実際に現地に行って作成します。それにより、地域資源を知る契機にもなります。
- ・ゲームを盛り上げるため、ちょっとした景品があることが望ましい。例えば、30周年記念グッズなど既存のものの活用が考えられます。また、商店街等とタイアップした景品を出せば、地域の活性化が期待できます。

#### 4 ガイドブックのガイド

これまでに区や市が発行した地域情報に関する雑誌のリストを掲載します。よりくわしい内容はこれらの雑誌で得てもらうようにします。P55、56参照。

#### 5 宮前区のプロフィール・概要

宮前区の人口、面積等のプロフィールや、特徴を表すデータ等をコラム的に掲載します。また、宮前区はエリア別に特徴があるので、それがわかる情報も掲載します。

#### 【ページ数、部数等】

- ・A4判、オールカラーで20ページ程度とします。
- ・毎年1万部印刷し、転入世帯への配布を中心に、公共施設で配布するとともに、区ホームページに掲載します。
- ・平成24年度中に作成し、3年程度を目安に改定します。

### 【スケジュール】

- ・「みやまえ情報サポーターズ養成講座」は、次のようなスケジュールを想定します。

平成 24 年 3 月 公募開始  
平成 24 年 5 月 講座スタート  
・ 15 回程度  
・ 他に取材や任意の打ち合わせ  
平成 24 年 12 月 雑誌発行

### 【作成協力】

- ・雑誌作成にあたっては、講座において雑誌の趣旨を理解してもらったり、受講生が取材する人・場所や、地域資源についてのアドバイスしてもらうなどの協力が必要です。地域に精通した区民会議委員が、これらを紹介するなどの協力をするものとします。

### 【その他】

- ・子育て世代も参加できるように、開催日時は平日の午前中で保育をつけることが望ましい。
- ・具体的なプログラム P54 を参照。

## 提案②：宮前区の地域情報を戦略的に発信しよう

### 実施内容

#### ◆「みやまえ情報サポーターズ」を結成◆

さまざまなメディアを使いながら、宮前区の魅力的な地域情報を区民の目線から継続的に発信する「みやまえ情報サポーターズ」を結成します。

### 【趣旨・目的】

- ・地域の魅力や楽しみ方を、市民や地域が主体となって発信しようとする動きが広がっています。例えば新百合ヶ丘では、大学生と地元タウン紙が協力して、大学生の視点から見た新百合ヶ丘のガイドブック「しんゆり Campus」（右写真）を制作しています。そこでは、しんゆりデートプランやリーズナブルでおいしいを大学生の視点から、大学生の言葉で紹介しています。こうした情報発信は、公平性やバランス感覚を重視する行政からは、出にくい面があります。市民や地域が主体で制作しているからできるものと考えられます。



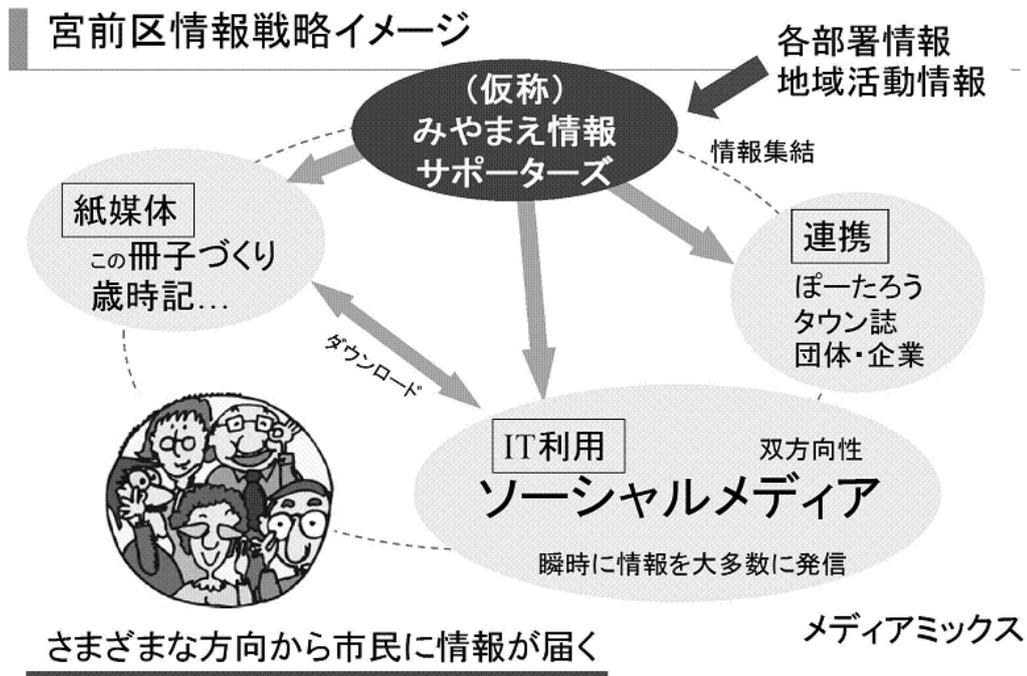
- また、近年の youtube などの動画配信や facebook (下写真)、twitter などのソーシャルメディアの興隆とともに、誰でも不特定多数の人に情報発信し、関心のある人同士がつながり合えるようになってきています。それらを活用して、地域のオススメ情報や口コミ情報を発信する動きが各地で活発化しており、これまで主流であったマスメディアや紙媒体による情報発信に匹敵するものになりつつあります。



- 宮前区においても、「みやまえぼーたろう」をはじめとする地域情報サイトや宮前区観光協会の情報誌「宮前の風」などがありますが、新百合ヶ丘周辺の取組などと比較して、地域や区民を巻き込んだ動きや仕組が十分ではないのが現状です。

**【実施内容】**

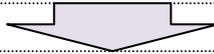
- これからの情報発信は、地域や区民を巻き込み、さまざまなメディアを効果的に活用して戦略的に展開する必要があります。そこで、広く区民に呼びかけて、地域で楽しむことに興味のある区民が気軽に参加し、こうした人たちの視点から継続的に情報発信する仕組として、「みやまえ情報サポーターズ」を結成します。



## 【結成や活動の流れ】

### ■講座を通じた人材育成

- ・「みやまえ情報サポーターズ講座」では、講座の受講生が「(仮称) コミュニティの参加を促す雑誌」を作成しますが、それに加え、ソーシャルメディア (SNS、ブログ、twitter、youtube、Ustream 等) についても学びます。
- ・さらに、様々な媒体を活用した効果的な情報発信・情報共有の戦略についても学び、その実践訓練として、雑誌の作成経過や雑誌に掲載する内容を発信していきます。
- ・こうした活動を経て、ソーシャルメディア活用のノウハウを身に付けます。



### ■みやまえ情報サポーターズの結成

- ・講座の受講生の有志を中心に、活動に関心のある人も募り、雑誌作成後も継続的に情報発信する「みやまえ情報サポーターズ」を結成します。
- ・みやまえ情報サポーターズは平成 24 年度内に行う講座が終わった後も自主的あるいは組織的に情報収集や取材をして、それをソーシャルメディア等で発信していきます。
- ・ソーシャルメディア等での関心のある人同士のコミュニケーションやネットワーク化の中で、みやまえ情報サポーターズのコンセプトに共感を持つ人を増やしていきます。



### ■継続的な情報発信

- ・これらにより実績・経験を重ね、みやまえ情報サポーターズが中心となって新たな付加価値のある情報が、継続的に発信されることが期待されます。
- ・活動の展開として、「コミュニティの参加を促す雑誌」改定版の制作や宮前区のイベントカレンダー「歳時記みやまえ」の編集も想定されます。

## 【スケジュール】

みやまえ情報サポーターズは、平成 25 年度の早い時期の結成が期待されます。

## 【課題】

- ・みやまえ情報サポーターズを結成するにあたり、その枠組をどうするかによって、活動形態や資金についての考え方が変わってきます。

緩やかなネットワーク ⇔ 既存組織が受け皿 ⇔ NPO などの組織体

- ◆活動形態 (個人の自由な活動 ⇔ 組織的な活動)
- ◆活動領域 (個別の情報収集・発信が中心 ⇔ 地域連携などへの展開も)
- ◆資金 (資金需要小 ⇔ 資金的な裏づけが必要)

- ・みやまえ情報サポーターズの状況（人数・能力・メンバーの意向）、受け皿となりうる組織の有無、区役所との関係などの各要素を整理し、メンバーが活動しやすい環境をつくる必要があります。

## 第2章 第3期宮前区区民会議の審議経過

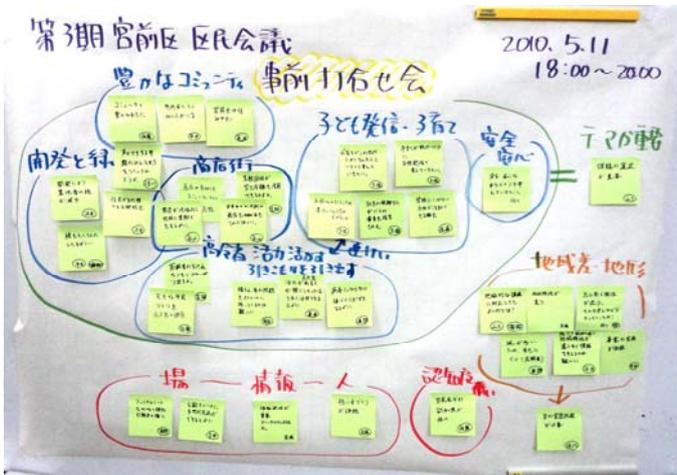
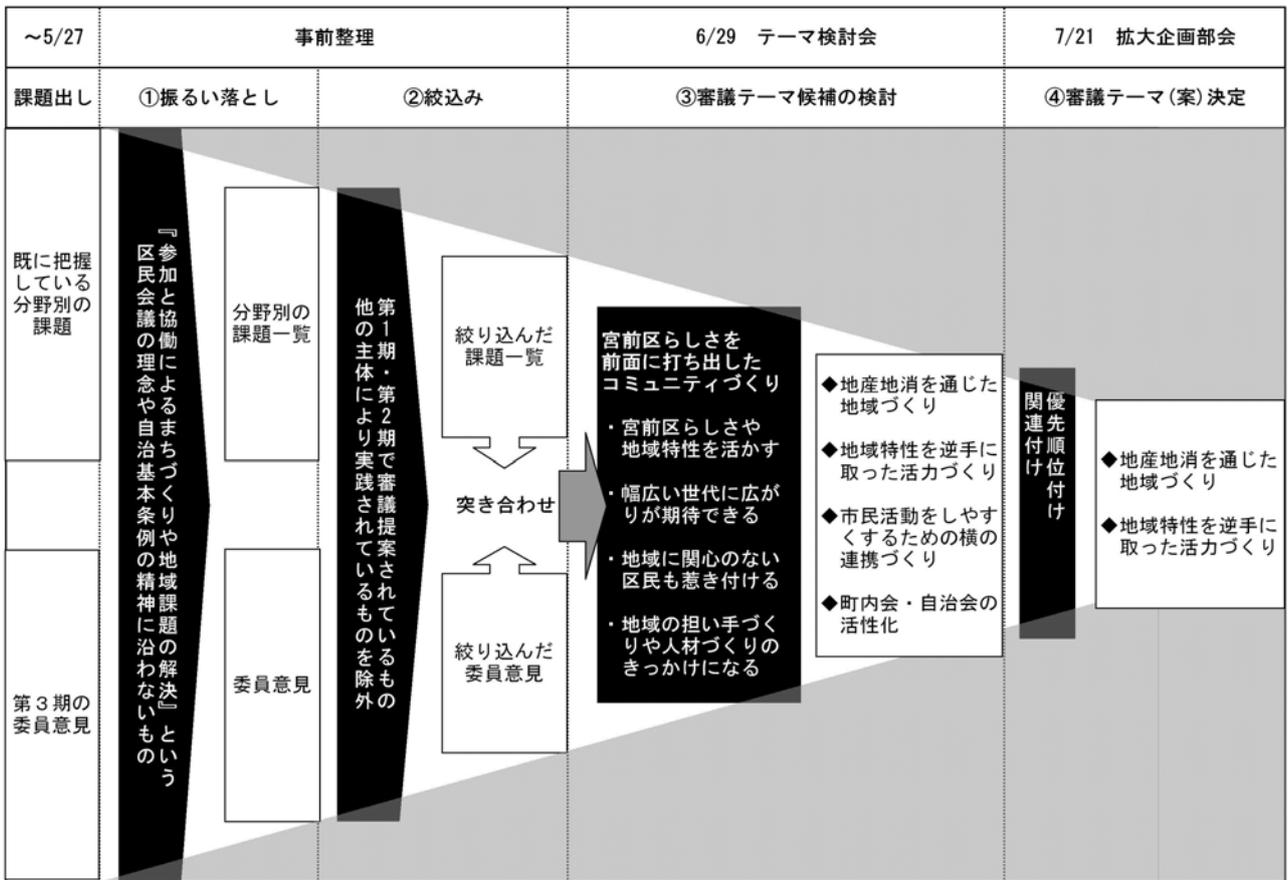
### 1 個別テーマの絞込

「宮前区らしさ・地域特性を活かしたコミュニティづくり」に取り組むにあたり、審議の切り口となる個別のテーマは「地産地消を通じた地域づくり」、「坂道などの地域特性を逆手に取った活力づくり・健康づくり」の2つとしました。

テーマの絞込は以下の5回の会議を経て行いました。

事前勉強会	平成22年5月11日(火) ・各委員が普段感じていることや宮前区について思うことなど自由に意見交換を行いました。
第1回全体会	平成22年5月27日(木) ・第3期区民会議で話し合うと良いテーマについて、2グループに分かれてワークショップを行い、意見を出し合いました。
テーマ検討会	平成22年6月29日(火) ・委員意見や区役所で把握している様々な課題を、「参加と協働という区民会議の理念にそぐわないもの」や「第1期・第2期区民会議の提案を受けて既に取組が進められているもの」などの観点から整理し、以下の4つの候補が挙がりました。 ①地産地消を通じた地域づくり ②坂道などの地域特性を逆手に取った活力づくり・健康づくり ③市民活動をやすくするための横の連携づくり ④町内会・自治会の活性化
拡大企画部会	平成22年7月21日(水) ・テーマ候補をさらに2つに絞り込みました。 ・テーマ候補のうち、検討したいテーマの投票、意見交換を行い、「市民活動をやすくするための横の連携づくり」、「町内会・自治会の活性化」を念頭に置きながら、「地産地消を通じた地域づくり」、「坂道などの地域特性を逆手に取った活力づくり・健康づくり」の2つを審議テーマ(案)としました。
第2回全体会	平成22年8月3日(火) ・「地産地消を通じた地域づくり」、「坂道などの地域特性を逆手に取った活力づくり・健康づくり」の2テーマ(案)を諮り、審議テーマが決定しました。

## ■絞込の流れ



▲事前勉強会・テーマ検討会では様々な意見がでました。



## 2 全体会と企画部会

### 1) 全体会

合計7回の全体会を開催しました。先述の審議テーマの選出、専門部会の立ち上げ、専門部会の審議結果報告・意見交換の他、第2期の提案に対する取組状況報告や宮前区の計画に関する報告などを行いました。

第1回	平成22年5月27日(木) 【議事】 グループワークによる意見交換 今後のスケジュール 【その他】 正副委員長の選出 第3期宮前区区民会議の進め方
第2回	平成22年8月3日(火) 【議事】 企画部会報告 審議テーマの選定と所属部会の決定 プレ部会と意見交換 【報告】 第2期提案事業の進捗状況 区の協働推進事業 平成21年度事業評価
第3回	平成22年11月11日(木) 【議事】 企画部会報告 専門部会からの報告と意見交換 【報告】 第3期実行計画素案 区の地域課題対応事業 平成23年度計画案 第2期提案事業の進捗状況
第4回	平成23年2月10日(木) 【議事】 企画部会からの報告 専門部会からの報告と意見交換 区民会議フォーラム 【報告】 第3期実行計画案 宮前区区計画 第2期区民会議の提案事業の進捗状況

第5回	平成23年8月2日(火)
	<b>【講演】</b> ZAMA 坂道マラソン <b>【議事】</b> 専門部会からの報告と意見交換 <b>【報告】</b> 第2期区民会議の提案事業の進捗状況 協働推進事業 平成22年度評価
第6回	平成23年11月28日(月)
	<b>【議事】</b> 第3期区民会議提案素案 宮前区区民会議フォーラムの概要 <b>【報告】</b> 第2期区民会議の提案事業の進捗状況 地域課題対応事業 平成24年度計画案
第7回	平成24年2月22日(水)
	<b>【議事】</b> 第3期区民会議提案(案) 宮前区区民会議フォーラム <b>【報告】</b> 第2期区民会議の提案事業の進捗状況



▲第1回全体会で行われた意識共有・審議テーマ抽出のためのグループワーク

## 2) 企画部会

合計8回の企画部会を開催しました。全体会に先立っての意見交換、資料の検討や専門部会の進行管理、区民会議フォーラムの企画など区民会議運営の進行確認・管理に関する検討を行いました。

第1回	平成22年7月21日(水) ・審議テーマ候補の検討 等
第2回	平成22年10月29日(金) ・企画部会・部会長の選出 ・第3回全体会の議事 ・企画部会からの報告 ・専門部会における検討状況
第3回	平成23年2月1日(火) ・第4回全体会の議事 ・専門部会における検討状況(共通事項、活力づくり部会、地参知笑部会) ・企画部会からの報告事項(区民会議フォーラム、中間報告)
第4回	平成23年3月8日(火) ・区民会議フォーラム ・専門部会における検討状況
第5回	平成23年7月26日(火) ・第5回全体会の議事 ・専門部会における検討状況
第6回	平成23年11月21日(月) ・第6回全体会の議事 ・宮前区区民会議フォーラム
第7回	平成24年2月17日(金) ・第7回全体会の議事 ・宮前区区民会議フォーラム
第8回	平成24年3月16日(金) ・宮前区区民会議フォーラム

### 3 専門部会の審議状況

#### 1) 活力づくり部会

##### ■審議テーマの設定

宮前区の一歩の特徴と言える「坂道」を活かし、まちの魅力づくりや健康づくりなどの活力づくりを行い、地域社会への参加につなげるための取組を審議しました。

##### ■開催経過

合計 11 回の部会を開催しました。

第 1 回	平成 22 年 9 月 7 日 (火) ・宮前区らしさ・地域特性を活かしたコミュニティづくりのイメージ ・具体的な審議テーマ 等
第 2 回	平成 22 年 10 月 6 日 (水) ・これまでの整理 ・コミュニティにつながる仕掛けづくりについて 等
第 3 回	平成 22 年 11 月 24 日 (水) ・坂道を活用した取組のアイデア ・坂道以外の視点の抽出 ・他地域における坂に関連する取組の紹介
第 4 回	平成 23 年 1 月 21 日 (金) ・坂道以外の視点の抽出 ・坂道を活用した取組のアイデア ・今後の検討の進め方 ・区民会議フォーラム
第 5 回	平成 23 年 3 月 2 日 (水) ・目黒区「坂道ウォーキングのススメ」についてのアンケート 結果の確認 ・坂道マップづくりに関する意見交換 ・今後の検討の進め方 ・区民会議フォーラム
第 6 回	平成 23 年 4 月 25 日 (月) ・坂道マップづくりに関する意見交換 ⇒コンセプト、対象の坂道、コース設定など論点確認 (P51、52 の議論ペーパー参照)
第 7 回	平成 23 年 5 月 24 日 (火) ・委員が作成した坂道ウォーキングコースの報告 ・坂道マップづくりに関する意見交換 ⇒コンセプト、エリア分け、各エリアのコース
第 8 回	平成 23 年 7 月 7 日 (木) ・坂道ウォーキングコース ・(仮称)坂道ウォーキングガイドブックの目次・コンテンツ ・坂道を活用したイベント・PR ・坂道マップの制作体制

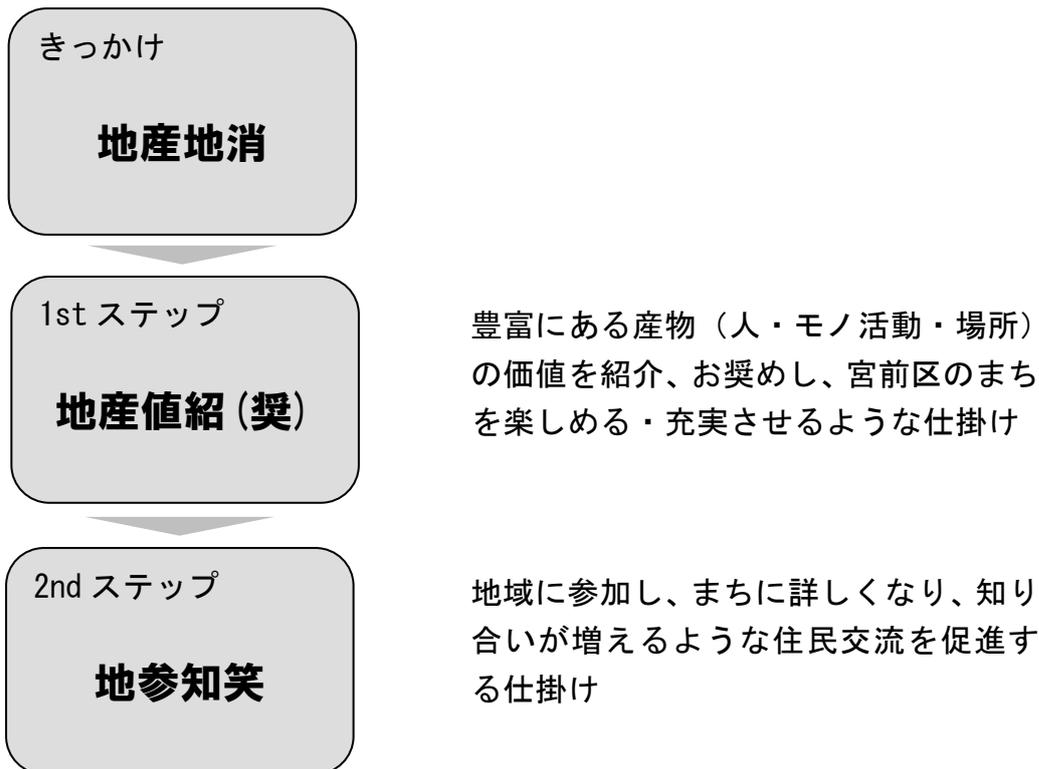
第9回	平成23年9月7日(水)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドブック作成のワーキンググループ計画</li> <li>・イベントや日常的な取組</li> <li>・PRの方法</li> </ul>
第10回	平成23年10月21日(金)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドブックのイメージについてワーキンググループからの報告</li> <li>・提案素案の検討</li> </ul>
第11回	平成24年1月31日(火)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案の検討</li> <li>・区民会議フォーラム</li> </ul>

## 2) <sup>ちさんちしょう</sup>地参知笑部会

### ■審議テーマの設定

地産地消から連想する農産物に限らず、幅広い意味で「地」域の産物を活かし、地域の魅力を「知」り、地域社会への「参」加につなげ、「笑」顔の広がるまちにしていくための取組を審議しました。

このような審議テーマの設定を行った経緯から、次のステップで部会名称を決定しました。



### ■開催経過と検討内容

合計 11 回の部会を開催しました。

第1回	平成 22 年 8 月 31 日（火） ・宮前区らしさ・地域特性を活かしたコミュニティづくりのイメージ 等
第2回	平成 22 年 9 月 30 日（木） ・地産地消の具体的な題材 ・部会名称と部会長
第3回	平成 22 年 12 月 2 日（木） ・地産地消を通じたコミュニティづくり ・部会の名称
第4回	平成 23 年 1 月 28 日（金） ・コミュニティづくりにつながる仕掛けづくり ・区民会議フォーラム

第5回	平成23年4月15日(金)
	・宮前区に愛着をもち、地域への参加を促すための雑誌の検討
第6回	平成23年5月16日(月)
	・雑誌の目次 ・ページの構成や作成の担い手
第7回	平成23年6月14日(火)
	・雑誌の目次とコンテンツ ・雑誌の制作体制
第8回	平成23年7月15日(金)
	・第7回までの議論のまとめ(P55、56参照) ・雑誌の制作体制と区の情報戦略
第9回	平成23年9月28日(水)
	・区の情報戦略(みやまえ情報サポーターズ) ・コミュニティへの参加を促す雑誌の制作体制と人材育成
第10回	平成23年11月2日(水)
	・提案素案の検討
第11回	平成24年1月27日(金)
	・提案の検討 ・区民会議フォーラム

## 第3章 第4期以降に向けて

第3期区民会議の運営について、評価できる点と第4期以降において改善すべきと思われる点について、主に次のような意見が出されました。

### 1 地域課題の把握方法

◆第3期の運営・・・既に把握している分野別課題に、第3期の委員の意見も加え、平成22年度の最初の全体会においてワークショップ形式で意見を出し合いました。

評価できる点	改善すべき点（4期への課題）
<p>●ワークショップで議論が活発に行われた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間がかかりましたが、はじめて参加された方々の意見を引き出すには良い方法だったと思う。</li> <li>・各委員がどのような考え方をしているのか、知ることが出来てよかった。個々に意見を発表するより、意見が出しやすくて良かった。</li> </ul> <p>●課題を共有できた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1期、第2期での課題整理について、事前勉強会において把握できた点が良かった。第4期も必要なことと思う。</li> <li>・時間をかけて、共通課題認識を共有出来たのは良かったが、任期を考えるとやや疑義がある。</li> <li>・区民会議の理念、目的が説明され、委員の役割活動の目標が明確にされたことは、良かった。</li> </ul>	<p>●理解を深めるには時間が不足</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題が多岐にわたり、理解を深めるには時間が足りない。小グループに分けて、発言時間を増やすなど、意見交換の時間を増やす工夫が必要。</li> <li>・初参加と2期目の委員では把握の度合いが違うので、今までの経緯の説明が必要。</li> <li>・基本形をマニュアル化するなど、地域課題についての共通意識を持つべき。</li> <li>・出来るだけ資料を簡潔にして。委員の要望に応じて詳細の資料を提供する方が良いと思う。</li> </ul> <p>●課題の掘り起こしで工夫を</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな課題の掘り起こしも必要。方法などの検討を要する。</li> <li>・区全体ではなく地域的な課題、提案も必要。</li> <li>・推薦団体から地域課題も一緒に提案して頂くなど、団体との連携強化が必要。</li> <li>・客観的な分析のため、民間も含めて、川崎市内の調査データの閲覧・分析が必要。コーディネーターも必要。</li> </ul>

## 2 審議対象課題(優先順位付け、分野、課題の数など)

◆第3期の運営・・・様々な課題を「参加と協働という区民会議の理念にそぐわないもの」や「第1期・第2期で提案を受けて実践されているもの」などの観点から整理し、4つのテーマに絞りました。さらに委員の投票と意見交換により、「地産地消を通じた地域づくり」と「坂道などの地域特性を逆手に取った活力づくり・健康づくり」の2つを選びました。

評価できる点	改善すべき点（4期への課題）
<p>●課題数や選定方法は妥当</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマも「2つ」に絞るなどの基本方針を決めておいて良かった。</li> <li>・結果としては、2つの選択は良かった。坂道は良いと思う。地参も住むから暮らすとの方向性は良いと思う。</li> <li>・はじめは、第1期、第2期のやり残したことを検証してからと感じたが、その手法では新しく参加する方々の参加意欲や意義が、薄れてしまうので、今回のような方式で良かったのだろうと思われる。</li> </ul> <p>●「住む」から「暮らす」の展開は良かった</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮前区を「住むまち」から「暮らすまち」にする議論の展開は良かったと考える。</li> <li>・テーマの絞込が比較的順調に行われ、宮前区の特徴に応じた対象が採り上げられ、しかも、実現可能にする段階まで、議論が進んだことは良かった。</li> <li>・みやまえカルタづくりを経験して、宮前区には、いろいろな宝があることを再発見したので、「地域のことを広く区民に知ってもらい、参加して楽しい暮らしをしてもらいたい」という展開は良かった。</li> <li>・坂道や地参知笑は良いテーマだった。地域特性と健康志向が繋がると良い。</li> </ul>	<p>●委員の会議への理解度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議を進めるうえでの根本を、事前に理解が深められるようにしてもらいたい。</li> <li>・区民会議委員になる時点で、「参加と協働」をしっかりと理解できていない委員がほとんどだと思う。</li> <li>・第2期の提案では、区民会議委員が実働部隊として残っており、区民会議が実働部隊なのか提案部隊なのかという理解が不明確だった。</li> </ul> <p>●事務局の関わり方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局が課題選定や審議内容にどこまで踏み込んで関わるのかが、課題であるように感じられた。</li> </ul>

### 3 全体会の会議運営

◆第3期の運営・・・おおよそ3ヶ月に1回、全体会を開催し、専門部会の進捗状況、第2期の提案への取組状況について、報告と意見交換をしました。また、座間市による事例の紹介をしました。

評価できる点	改善すべき点（4期への課題）
<p>●<b>会議開催のペースは妥当</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗状況を3ヶ月に1度全体会で報告することは、ひとつの区切りの意味が良い。</li> <li>・全体会への報告に合わせて、専門部会の活動を考えると3ヶ月でよいと思う。</li> </ul> <p>●<b>他都市の事例紹介は参考になった</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・座間市の事例紹介も参考となった。事例を聞くことは違う視点から考えるきっかけになるため、今後も継続した方が良い。</li> <li>・座間市の事例は、若い市民のパワーが感じられた。会場の参加者に伝わったと思う。</li> <li>・他都市の事例、目黒区、座間市の前例は非常に参考となった。方向性を定める上でも役にたった。</li> <li>・目黒区の坂道マップが配布され、坂道の活用方法のイメージができて良かった</li> <li>・地域課題の視点拡大のためにも、大いに参考にすべき。</li> </ul>	<p>●<b>全体会が形式的</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体会が形式的。委員全員での会議があって、そして、公開の全体会が運営されるほうが、中身をもっと話し合えるのでは。</li> <li>・全体会では実質審議はできないので、全体理解の機会として位置づけ、回数は1回少なくてもよい。</li> <li>・座談会形式かディベートが必要だと感じた。形式的な報告が多かった。座間市の話（マラソン）は、宮前区では難しそうだった。話を聞いて部会等で討論する時間が不足していた。</li> </ul> <p>●<b>区民が興味を引く工夫を</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3ヶ月に1回という頻度は今期の場合には進行速度が緩やかなことや意見交換の内容から、4ヶ月に1回ぐらいでも良い。全体会は自分たち委員が開催し満足するのではなく、傍聴者や報道関係、参与の方々にもわかりやすく興味を引く内容にする工夫が必要。</li> </ul> <p>●<b>区民会議参与からの助言</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参与の意見をもっと伺えると、部会活動の参考になると思う。</li> <li>・参与のアドバイスは、参考にしたいし、区民会議を傍聴してもらうことで、市議会での活動にも役立ててもらえることのできるので、参加してもらえると良い。</li> </ul>

## 4 専門部会の会議運営

- ◆第3期の運営・・・2つの専門部会を設置し、他都市の事例紹介や区内の現状分析などを踏まえながら、アイデア出しと内容の絞込をしました。また、適宜、委員の意見を宿題形式で出してもらいました。

評価できる点	改善すべき点（4期への課題）
<p><b>●部会の自由選択</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分で部会を選ぶ形式は良かった。責任感につながる。</li> </ul> <p><b>●進行ペースは妥当</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>はじめは進行の遅さが気がかりであったが、最終的にはよい案が出来たと考える。</li> </ul> <p><b>●中身のある検討ができた</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地産知笑部会は冊子制作に留まらず、市民館と提携して人材育成まで計画できて良かった。</li> <li>坂道ルートを選定など、現場への調査活動も活発で委員の方々には感謝したい。</li> <li>現行の会議回数では内容を煮詰めるための時間が足りないため、宿題形式を提案した。宿題を出すことで次回会議までの間、審議内容を個々に整理することができ、効果が得られたと思う。また欠席する委員の方の意見も反映でき良かった。</li> <li>活発な意見交換ができ、委員の意見が反映されて良かった。</li> <li>地産地消の部会名を「地産知笑」にしたのは良かった。</li> <li>しっかり時間をかけて検討できた。</li> <li>出席率も高く、また、個々の委員の発言も多く、活発でよかった。</li> <li>事務局のサポートが実務的で良い。</li> </ul>	<p><b>●部会間の情報共有</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2つの部会の「冊子」作りという点では似ている感じがした。ただ、途中から方向性の違いが見えてきた。大勢集まる全体会で、他の部会の活動を知るのは、若干違和感があった。もっと相互部会との交流・意見交換があっても良かった。</li> <li>2つの部会相互の情報交換が必要。</li> </ul> <p><b>●委員の負担</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>委員によっては負担を大きく感じる方もいた様なので、宿題形式を行う時に簡単な内容にすることも必要だと途中で感じた。</li> <li>宿題を機能させることが課題。</li> <li>アイデアの絞込について、一部委員の負担が大変だったのではないかと反省している。</li> </ul> <p><b>●専門的な視点での検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地産知笑部会については、地域の農業・産業などの専門的な視点でもっと検討したかった。</li> <li>冊子作りなど専門的知識が必要になると経験や発想が必要となり、自身の力不足を感じた。</li> </ul> <p><b>●欠席委員へのフォロー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>連続して欠席となった委員へのフォローが大切。</li> <li>委員の出席率の改善。</li> </ul>

## 5 区民会議から提案された課題解決策の取組と進行管理

◆第3期の運営・・・第2期の提言「冒険遊び場」や「みやまえカルタ」等については全体会でほぼ毎回、進捗状況の報告・意見交換を行いました。

評価できる点	改善すべき点（4期への課題）
<p>●第2期提案の実効性が理解できた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期の委員が今期に残り、具体的に進捗状況を説明していたのは効果があった。</li> <li>・今期の提案には翌期にフォローがあるとの感触を得て安心して提案出来る。</li> <li>・区民会議は諸団体から選出された委員もいるので、報告することで協力できることもあるので報告して良かった。また第2期に審議結果がどのように実施されていくのか把握でき、今後の審議をどのように進めて行けば実行しやすくなるか判断材料になるなどの効果もある。</li> <li>・報告は、流れが分かったので良かった。</li> <li>・第2期の提言の取組は、いずれもうまく進行していったと思う</li> <li>・第2期から委員を務めている方から直接感想が伺えて良かった。</li> <li>・報告が毎回あって、進行状況が、よくわかった。</li> <li>・適切な報告であった。</li> <li>・もっと、やっても良かった位、必要な事である。</li> <li>・冒険遊び場は非常に良いテーマで、第2期の報告書の内容も良かった。</li> </ul>	<p>●報告を詳しく</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期提言の進捗状況説明の場合、実際に何時どこで実施するのか、案内する必要がある。（特に新委員の場合）見学すれば理解しやすい。</li> <li>・「冒険遊び場」や「みやまえカルタ」が報告で終わっていた。第3期として協力すべきこともあったのでは。</li> <li>・第1期の提案の進捗状況もしてほしい。</li> <li>・宮前区の冒険遊び場の取組は十分ではない。NPOなどを立ち上げて本格的に具体化すべき。</li> </ul> <p>●第3期提案の実効性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3期の提案には実行段階での仕掛けづくりなどのアイデアが多くある。着実な実施、解決が望まれる。</li> <li>・今後いかに区民を巻き込むかが課題。</li> <li>・両部会とも「イベント」をどのように実施するのか次期への課題が残る。</li> <li>・課題解決、取組の際、全く新しい組織から取り組むより、町内会、老人クラブ、こども会等、組織として定着してなく、会員、役員が多く、活動が活発な組織を利用、活用する様心がける方が良いと思う。</li> <li>・4つのテーマのうち「町内会・自治会の活性化」が具体的にとり上げられなかった。提言の実施段階で結びつける必要がある。</li> <li>・提言をした提案に、第3期委員がどこまで関わるのかが明確でない。</li> <li>・地参知笑について、2年間の議論の割には情報誌の内容の具体性が不足。</li> </ul>

	<p>●PDCA</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Plan⇒Do⇒Action⇒Check のサイクルを回すことが必要。Plan 倒れや Do 止まりが見受けられる。</li> </ul>
--	--

## 6 その他

区民会議の開始時期（宮前区と川崎区は4月。他区は7月）についての意見や、区民会議への参加を通じて感じたことなど。

評価できる点	改善すべき点（4期への課題）
<p>●4月開始が良い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予算要求や審議回数を考えると現行の4月開催が良い。会議に参加することで様々な世代や団体の方々と知り合うことができ、勉強になった。また宮前区が暮らしやすくなるように考え話し合えたことは貴重な体験でしたし、暮らしやすくなった宮前区をイメージすると楽しくもあった。</li> </ul> <p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・傍聴は呼び掛ければ来るのではないかと。近隣（自治会）に説明したところ、多い時で5～6人、中には継続して来る方もいた。</li> <li>・第2期のカルタ制作・冒険遊び場の開催を通じて、区民会議を知ったという人も増えたと思う。</li> <li>・いろいろな世代や団体の方々と話し合うことが出来て良かった。区民マラソン実現が望まれる。</li> <li>・公募委員を増やすべきでは。</li> <li>・区民会議の委員は優秀で、報告書の内容も素晴らしかった。</li> </ul>	<p>●4月開催の説明が不足</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他区はなぜ7月に開始しているか説明がほしい。4～6月の間は何をするのかなど。事前準備、又は委員決定者の学習期間など。</li> </ul> <p>●区民会議の意義への理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各期の会議の最初の段階で区民会議の意義や理念などを委員に説明する必要がある。</li> <li>・区民会議委員として参加する意識をしっかりと持ってもらう必要がある。</li> <li>・新しく委員になる人のためにも、一回目の会議において十分な説明が必要だと思う。</li> <li>・やりたいことが出来るという事ではないこと、場合によっては所属している団体の活動とは全く関連のない活動をするかもしれないことの事前説明が必要。</li> <li>・委員の主体性が十分でなかった。プランクスツェレ手法をアレンジしながら積極的に取り入れていくことがあっても良いと感じた。</li> </ul> <p>●区民会議の認知度向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区民会議の知名度向上、PRが必要。</li> <li>・さらなる区民会議の知名度、活動などの認知度を高める工夫が必要だと思う。</li> <li>・区民会議の認知度を高めないと「地域課</li> </ul>

	<p>題」の本質について、深めていけないのではないか。</p> <p>●<b>団体推薦委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 団体推薦委員の関わり方が不明確。団体内での報告にとどまってしまう。</li><li>・ 団体推薦だったが、母体の意見を集約するというよりは、個人の意見を言っていた。各団体への呼びかけは途中段階というより、実際の提言の段階でできると思う。</li><li>・ 団体代表というより、宮前区民のためという位置づけと考える。</li></ul> <p>●<b>その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 企画部会の充実が必要。企画部会の人数は5名程度が良いが裏方である必要はない。企画部会での意見・活動を専門部会へ戻し活動を促進する。</li><li>・ 東日本大震災で区民会議フォーラム、各区交流会が開催されなかったことは残念である。</li></ul>
--	--

## 第4章 宮前区区民会議フォーラム開催報告

### 1 開催概要

日時：平成24年3月24日（土）13：30～16：10

会場：宮前区役所4階 大会議室

内容：アトラクション（落語「古典落語と長屋の暮らし」）

第1部 第3期区民会議からの提案の報告

第2部 宮前区を『住む』から『暮らす』まちへ



### 2 第1部 第3期区民会議からの提案の報告

直本副委員長より区民会議の概要について、活力づくり部会・佐藤部会長、地参知笑（ちさんちしょう）部会・持田部会長より、それぞれの部会の提案内容について、報告がありました。



### 3 第2部 宮前区を『住む』から『暮らす』まちへ

#### 1) 事例発表

タウンニュース川崎支社支社長・原田一樹氏より「タウン紙記者が語る宮前区の魅力」について、ひまわりサロン実行委員長(川崎市民生委員児童委員協議会会長)齊藤喜信氏より「東日本大震災の被災者への支援」について事例発表がありました。

#### ■「タウン紙記者が語る宮前区の魅力」について (区外に対するブランドづくりができている宮前区)

- ・宮前区は県外からの流入が多い。区外に対するブランドづくりができていうこと。都心に近い、周辺にICがあるなど交通の便がよい、教育水準が高いといったことが挙げられる。一部雑誌では、鷺沼が塾銀座ということで大手中小関わらず紹介されている。川崎市では、小杉が全国的に名を馳せているが、宮前区のニーズもあるようだ。
- ・宮前区は農が充実している。都市農業といえば地産地消。顔がみえる農家さんがつくったものが提供されるのは、住宅地がこれだけある宮前区という都市部にあって、大きな魅力になっている。歌いながら、畑を世話するおばあさんがいるなど名物人がいることでも農が大事だと思う。また、地域コミュニティの活性化という中で農家の人担当部分も大きいと聞く。これも魅力のひとつ。



#### (地域活動を広げていくときに大切なこと)

- ・宮前地区連合町内会の50周年を記念して冊子をつくるということで、タウンニュースでもシリーズで町内会・自治会を紹介している。その取材の中で感じたことは、各会でお話をされることが同じ内容であることが多いということ。活動を通じて、お年寄りや子供たちが参加しやすい環境をつくり、異世代交流をしたいということ、活動がシンプルで分かりやすい、楽しみながら活動ができることの3つ。各会の目的はさまざまだが、根っこの部分は一緒である。
- ・加入率など抱える問題はあるが、自治会の単位の中で入っていないとしても、参加する機会があることによって、加入率以外の潜在会員がいてもおかしくないと思う。
- ・去年のラブ宮前で、地域活性化の条件として、地域力は住民の参加意欲によって変わるという話があった。イメージを共有できる、人・場所・機会の3つで絆を広げていくことが大事だと言っていた。行動して、周りを巻き込んで、輪を広げていくことで、人のネットワークが広がり、絆ができていくことが魅力だと思う。

### (区内に対するブランドづくり)

- ・宮前ロールを仕掛けたのはタウンニュース。製菓工場と養鶏場の協力を得て、宮前名物ができないかという話になった。第2のステップとして、地元農家の方からブルーベリー、ナシ、いちじくなどでパイもつくり、しっかり売れた。
- ・今あるものもそうだが、活動の中で何かをつくっていくことも大事。住んでいる人たちに宮前区のまちを知ってもらうこと。どういうふうに誰が発信していくかが大事。何をすれば効果的なのかを大事にしていけば、区内に向けたブランド化もできる。

### (坂道への着目は面白い)

- ・宮前区は坂が多い。坂道を魅力として発信していこうと思うことがすごいと思った。これで健康づくりをできれば面白いと思う。我々としても発信していきたい。

### (まとめ)

- ・宮前区は魅力もあるし、魅力をつくる土壤もある。いかに魅力を伝えていくかが重要ではないか。

## ■「東日本大震災の被災者への支援」について

### (ひまわりサロンの目的)

- ・1つ目は避難者に必要な情報や必要な物資の提供を行う他、様々な生活不安などについて相談に応じ、また必要に応じて行政機関に橋渡しをし、解決に向けて支援すること。2つ目は、避難者同士はもちろんのこと、地域人との交流を促進し、避難者の孤立を防ぎ、地域になじみ、通常の生活が送れるように支援すること。
- ・ひまわりサロンという施設名は、避難してこられる方がひまわりのように、上を向いて元気に苦難を乗り越え、生き生きして、孤独にならないでほしいという実行委員の願いから付けた。



### (実行委員会の立ち上げ)

- ・宮前中央地区社会福祉協議会、子育てサポートほっぷ、親子で一緒に外遊びの会、宮前区民生委員児童委員協議会の4者で立ち上げた。

### (避難者の状況)

- ・避難者の大半は原発の放射能汚染による方が多く、津波による被害者の方は少なかった。入居者は35世帯80人程度で推移。福島県の人が多い。宮崎台住宅に来るまでに5、6回転居しているようだ。

### （ひまわりサロンの取組）

- ・ほっとサロンでは、食類や生活用品をいつでも選んでもらえるように並べ、もうひとつの部屋には宮前区の大きなマップを貼って、病院、郵便局、スーパー、福祉施設など、生活に必要な箇所に印を付けて、地域の生活に必要な情報提供を行った。スーパーだけでなく、100円ショップやリサイクルショップも聞かれた。福島県の地元紙も置いて、くつろげる環境をつくっている。
- ・平成23年5、6月は日曜日を除く毎日、7月以降は月・水・金 10:00~12:00、13:00~15:00に運営し、主に民生委員が常駐し、避難者の相談や行政機関との橋渡しを行っている。
- ・神奈川県の実業である「かながわ避難者見守り隊」と連携し、宮前区へ避難している全ての家族への支援を広げる可能性も生まれた。お互いの情報交換を積極的に行い、成果をあげた。

### （ひまわりサロンの現在）

- ・当初は生活不安、持病悪化など肉体的、精神的に気弱になった方の訴えが多かったが、宮崎台住宅での生活にも落ち着かれ、生活も安定し、前向きな話をする方が増え、元気な姿が多く見受けられるようになった。
- ・避難者のみなさんから、サロンの掃除、ごみだし、お茶汲みの手伝いをしたいとの申出もあり、お互いの絆が深まったことを喜んでいる。

### （フリーマーケットの取組）

- ・フリーマーケットは宮崎台住宅に隣接した公園で実施した。避難した方は地理もよく分からず、生活に必要な日用品や家具について、どこで購入したら良いかわからない状況だった。フリーマーケットではすぐにでも必要な日用品、食器・雑貨・衣類・おもちゃなど地域の方々の寄付で集まったものを無償で提供した。
- ・参加した避難者には大きなひまわりの造花をつけてもらって、希望するものを無料で差し上げた。今でもひまわりの造花を飾って親切を忘れないようにしている人もいた。

### （情報誌「ようこそ宮前区へ通信」の発行）

- ・平成23年4月から11回発行。その内容はフリーマーケットのお知らせ、衣類を提供する「ブティックひまわり」の開催と家具類提供のお知らせ、市や関東財務局からの告知、宮前区への被災届の提出、防犯対策、扇風機・カーペット進呈のお知らせなど催し物の情報だけでなく、行政情報や、生活に必要な情報を掲載している。配布にあたっては、単にポスティングするだけでなく、体の不自由な方、病床の方には、直接手渡しをして、安否確認も行うように努めている。

### （今後の課題）

- ・宮前区には平、鷺沼、有馬にも避難された方がいる。それらの方たちの孤立を防ぎ、支援を広げていくことがこれからの課題。宮崎台住宅を宮前区を中心として、近隣の避難

者も集まることができれば、同じふるさとの人に出会えると思うし、人と人がつながっていくことができる。孤立しがちな避難者同士を結びつけることで、この人たちを地域につなげていくことが大事だと思っている。

- ・区内の他の地区で避難している方は把握しているだけで20人。ほとんどの方は原発の影響。今回の震災は東日本大震災とひとつに括られているが、原発事故、風評被害などをきちっと受け止めたい。大津波、原発の2本立てとして受け止め、後世に伝えるべき。
- ・最近の避難者の不安は、放射能の汚染でいつ戻れるかわからないこと、生活費の不足、見舞金の保証の問題、就職ができないことなどであり、明らかに避難当初からは、悩みが変わってきている。少なくとも今の住まいで安定した生活を送ってもらうことが当面の課題。
- ・宮崎台住宅は老朽化し、近い将来に退去する必要に迫られている。退去するまでに自力で生活する場をつくることができるのか。また、区を含めた行政機関の長期的な支援を願わずにはられない。

## 2) 意見交換

事例発表をした原田氏、齊藤氏に活力づくり部会・佐藤部会長、地参知笑部会・持田部会長を加え、まちづくりコンサルタントの佐谷氏をコーディネーターとして、意見交換を行いました。



### (「住む」から「暮らす」へのアイデアについて)

持田：私は地域教育会議から団体推薦で参加しているが、子どもたちのことを考えると、一番良いのは子どもたちが安全に笑顔で育っていく地域であること。よく宮前区の方に聞くと、大きな商業施設がないという声を聞くが、大きな商業施設が来て、環境が悪くなるのであれば、それは必要ないと思っている。自分の身の回りのものがその地域で買えるのであれば、それが一番。良い地域であれば、子供たちがこの地域で生活し、子どもを産んでいこうと思える。小・中学生で私立に行く子が多い。できれば、小・中学校は公立にいったらどうだろう。それが不安にならないような学校の体制がとれば、同じ仲間と同じ学校で通い、その地域で生活していく。それが人のつながりにつながっていくと思う。

区民会議でテーマを決めるときに提案したのは、み



んなでひとつのことができるよということ。横浜市では、市歌があって、行事の時に必ず流し、歌が流れるとみんな歌えるようだ。川崎フロンターレの試合のときに最初にサポーターが歌を歌うが、そのようにみんなで共有できるものがあると、人とのつながりができて温かいまちになるのではないか。

佐谷：先ほど原田さんの話があったが、教育ということが住むということでは大事であること、共有できるものがあればということ。佐藤さんはどうか。

佐藤：家に帰るのは寝るだけというのが正直なところ。区民会議では、それを発信していくことが私の役目と感じ、会議に参加してきた。仕事で高齢者に関わっているので、コミュニティはとても大切ということは認識している。今の時代の中で、どうしていくことが大切かということで第2期もあわせると区民会議を4年間やってきた。良いことは言ってもらったり、学んだりすると、忙しい中でもやりたいと感じる人はたくさんいると思う。無数にある情報の中で自分が選択して、自分の良いところだけに行くという人が大半だと思う。今後は関心のない層の人をどう取り入れていくか。活力づくり部会では、楽しいことを考えた。自分は楽しい活動には参加しているので、楽しいことの積み重ねを繰り返しながら、地域に溶け込んでいけるようなシステムづくりと、良いこと、楽しいことを継続していくことが必要であると感じている。継続して参加していくことで地域のつながりが大事だと感じてもらえると思う。

佐谷：楽しいことなどを用意していくことが必要ということですね。宮前区において、ここ20年の推移や東日本大震災後の1年などで、「暮らす」市民が増えているのか、減っているのか。それを踏まえて、アイデアはあるか。

原田：「暮らす」というキーワードが難しいと思っている。

「暮らす」という定義が、宮前区に長く住んでいるものの、分からない。楽しいことがたくさんあるから、人が活動に参加するという意見は大賛成。いつも仕事で9:30に会社へ出勤し、23:00くらいまで仕事をしているので、地域活動には参加できない。参加するきっかけをつくるためには、興味を持たせるための情報発信が重要。

東日本大震災の前後、区民のみなさんの温かさを感じた。震災時に困っていた人のために、何らかの動くことができる区民がいたようだ。よいまちであることを再確認できたと思う。震災でみなさんの周りではどのような方々がどのような形で助け合ったか、「暮らす」というまちのキーワードの中で大きな意味を持つのではないかと思う。

佐谷：そういった区民の活動が自治といえるのではないか。そういう取組をみんなで調べたらということか。

原田：選択肢を増やすということではないか。人口が22万人ということなので、それぞれ好きなことが違うし、いろいろなものが混在するのは良いと思うので、そういった



ことをどの程度発信し、選択させていくか。選択をした場所でどういうコミュニティを築いていくかという連鎖を求めていくことが、良いのかなと思う。

佐谷：齋藤さんの「ようこそ宮前区へ実行委員会」の取組は、被災者が寝床から「暮らす」ということを支援しているが、宮前区は年間 15,000 人くらいの転出入があるが、新しい転入者が多い。これらの人に手厚いサポートはなく、地域に溶け込むことなく、また転出するということが想定されるが、避難された方が「暮らす」という状況に向かうようにサポートしたことを踏まえて、「住む」から「暮らす」へのアイデアはないか。

齋藤：その前に民生委員として一言言いたい。今回の地震で、東北3県で民生委員と見守りや手助けにいて、亡くなった方が56名いた。ひとりも見逃さない運動という大きな重しがあったから、それに基づいて活動して、それだけの方が亡くなった。災害時要援護者支援ということを全国的に打ち出しているが、一人も見逃さないというところだけ外した。そうしないと重荷になりすぎる。ここでお願いしたいのは、民生委員は「こんにちは赤ちゃん」訪問から高齢者の見守りまで、非常にたくさんのノルマを持って動いている。ひとつ障害になるのは、行政からの情報提供。個人情報保護があって、教えてもらえないことが多々ある。民生委員などいろんな立場の人で、守秘義務を法律で課せられている人に対して、行政から弱者の情報を流してほしい。町会の仕事を16年、町会長を6年やった。加入率は60%弱。ある役員の中からは、町会に入っていない人は、いざというときに助ける必要があるのか、町会費も払ってもらえず、街路灯の費用を出していないので、夜歩いてもらっては困るという意見もあった。そのくらい町会に入ってほしいと思っている。入ってほしいから、町会としては、盆踊りや運動会、お神輿など、みんなが集まれるようなイベントを行っている。普段の防災訓練でも、子どもとお母さんだけが来て、お父さんがテレビを見ているという残念な話も聞く。そういうことも含めて、「隣組」という言葉を出しておきたい。



結論としては、行政からの弱者に関する情報提供、「隣組」といった意識がないとなかなか「暮らす」というのは難しいと思う。

佐谷：「住む」から「暮らす」まちということで、住んでいる人の情報や、活動する人としては「隣組」という人や組織の話が出た。区民会議の議論の中では、町会・自治会の話は出ていたが、楽しいことや共有できるものをつくっていくという話の中で、担い手は別にいるということだったが、そのあたりについて持田さん、佐藤さんはどうでしょうか。誰がやっていくと、「住む」から「暮らす」まちになるか。

持田：町会・自治会だけのことをいうと、できあがった組織で、そこに持って行くというのはハードルが高いと思う。町会・自治会は情報を教えてくれないことがたくさんある。

佐藤：活力づくり部会では、担い手という話が出た。私自身市民活動にたくさん出ていて、スケジュールがバッティングすることや、休みを全て費やして自分の首を絞めてしまっているという状況がある。活動していても、同じ顔を見る。誰かが担い手にならなくても、ガイドブックをもっていれば、自然に地域に入れる、好きな時間に行ける、時間の枠をはずせるというコンセプトで考えた。区民会議をやって、宮前区はいろんな活動をしている人がたくさんいる。ガイドブックをいろんな団体で好きに使ってもらって、団体の特徴を活かして使ってほしい。その他に課題解決提案制度を使って、新しい風を吹き込んで、担い手を分散することで負担をなくし、より多くの人に興味を持ってほしいと取り組んできた。



佐谷：担い手ということで、他の区など新しい風は吹いているのか。

原田：新しい風は吹いてないのではないかな。

佐谷：やはり町会・自治会や既存組織が担い手になっている状況か。

原田：防災関連の組織が震災を機に増えてきたが、担い手がいないことがいろんな面で課題になっていると思う。地域で活動するという目的意識をもって参加している人が減少傾向にあると思う。根本の問題として、活動することで、どういう結果が得られるかというビジョンが見えていないので、それに対する動機付け、モチベーションが上がってこない環境については、何か考えなくてはいけない。一方でお祭りなどの多くの方が参加する場を活かして、担い手を育てていく環境づくりをやっていかなければいけないと思う。

佐谷：「ようこそ宮前区へ実行委員会」は昔からの民生委員の組織と子育てサポートの会と一緒に組織されていると思うが、そういうお祭りのイベントと体育委員みたいな昔からあるものの連携みたいなものはどうすればよいか。

齋藤：区民会議委員の豊島さんに「ウェルカム！みやまえ」を紹介してほしい。

豊島：「ウェルカム！みやまえ」は、宮前地区と向丘地区で6月頃に2回わけてやるもので、3ヶ月以内くらいに転入されてきた小さいあかちゃんを連れのお父さん、お母さんを募集する。40組くらい来る。民生委員や先輩ママと地域によってグループを分けて、病院やスーパーなどいろんな場所を教えている。これまで3回やっていて、中原区が同じことをやるくらい、大変好評をいただいている。

齋藤：公園デビューの場所を教えるなど、お母さんが不安にならないように、子どもがのびのびと育ってくれるようにと思って活動している。

佐谷：会場からはないか。

会場：「ウェルカム！みやまえ」に参加している。去年平地区から参加していただいたおかあさんが宮前子育てフェスタの企画委員になり、平地区の赤ちゃん広場のスタッフになる、ということがあった。宮前子育てフェスタは働いているおかあさんも企画運営に参加しているが、一時、実行委員が集まらなかったときがあった。宮前区の

子育ては、現役のおかあさんが主体で頑張っていくのが良いという伝統があって、先輩がなんでも企画するのではなく、当事者が中心になってやっていくことが良いという意識があった。しかし、担い手がいないときに、発想の転換で保育を付けた。別室保育はハードルが高かったが、同室保育にした。そうしたら、徐々に活動に参加する人が増えた。

今まで働いていて、子どもを産んで、地域に入っていけないというお母さんを良く知っているが、赤ちゃんがいるときに狙い目。小学生になると、フルタイムでお母さんが働き出してしまい、機会がなくなる。産休の時に地域に入ったお母さんが、地域の活動に触れて、社会的意義を感じて、自分の趣味だけでなく、活動することが地域を良くすることにつながるという実感ができ、一旦活動を休んでも、その後戻ってくる。そういうことを実感しているので、赤ちゃんを産んでいるお母さんを担い手として育てていくと良いと思う。地域で仲間ができれば、子どもが小学校に上がっても不安がないと思う。そこでつながっていたお母さんたちが PTA 活動をしている。それがヒントになると思う。

「暮らす」というところでは、人のつながりが大事だと思う。子育て関係でうるかむクラスにおいては、民生委員、行政の方とすごくつながりがある。お母さん達をサポートする年配の方、行政の方がつながっていることが、宮前区の良さだと思うので、それが良い方向につながっていけばよいと思う。

佐藤：担い手発掘というのは、自分のやりたいこと、目的がはっきりしていると育ちやすいのかなと思う。落書き戦隊ケスンジャーという活動をしている。当時小学生だった子どもたちが目的意識をもって、まちの落書きを消したいということからスタートしているグループである。目的意識や各団体のやりたいことの魅力が分かりやすいと参加しやすいと思う。落書き戦隊ケスンジャーの子どもたちはもう大学生になるが、まだ活動を続けたいという意識を持っている。各団体の目的意識などの PR を変えていくと、担い手の発掘につながっていくと思う。

### （意見交換のまとめ）

佐谷：地域に参加するきっかけをつくってあげれば良いという意見が出た。みんなで共有できることや楽しいことをやる中で徐々に地域とつながっていく、いろんな選択肢を用意して、参加するきっかけをつくるといったこと。

近所のつきあいについての意見では、アトラクションの落語であった長屋の話のように、また、隣組という話もで



たが、小さい単位での近所付き合いや弱者の情報提供がほしいということ。担い手の話で町会・自治会もそうだが、新しい担い手をつくっていく、また意見交換の最後の方では、子どもがキーワードで、子育てしているお母さんが、赤ちゃんがいるときに地域に関わると、一旦お休みしてもまた戻ってくる、子どもの時に地域活動

に関わると大学生まで関わるといった話もあった。そういう担い手づくりは子ども・子育て中のお母さんを対象にすることも重要なのではないかという意見があった。

「暮らす」まちにしていこうというのは永遠のテーマだと思うので、今日の議論を参考にしながら、区民会議第4期、第5期へとつなげていければいいと思う。

## 4 その他の催し物

その他、第2期区民会議の提案事業である「みやまえカルタ」の実演や「冒険あそび場」に関する展示、地元名産品の提供によるティータイムを行った。



## 5 来場者アンケート

来場者アンケートを行った。結果概要は次のとおりである。

### (フォーラムを何で知ったか)

項目	人数	備考
市政だより区版	6人	
区民会議だより	6人	
ポスター・チラシ	1人	
宮前区ホームページ	1人	
その他	8人	区民会議委員から、回覧板、区役所職員から、主任児童委員として参加、知人から

### (フォーラム第1部「第3期区民会議からの提案の報告」)

#### ◇区民会議からの報告は理解できたか

項目	人数
理解できた	9人
ほぼ理解できた	11人
どちらでもない	1人
理解できなかった	0人

#### ◇第3期区民会議からの提案についての主な感想

- ・成果物が目に見える形になると区民会議委員もやりがいがあると思うが、その後の活用方法や特定の人のためのものにならないような工夫が必要だと思う。

- ・苦手な坂道も楽しめる気がした。サポーターズ養成講座はどんどん宣伝して募集に力を入れてほしい。
- ・坂道という短所を逆に生かした発想が良い。
- ・坂道に住むことは体力増進に良いまちであることを徹底する。
- ・活動の状況をもっと広く住民に知らせることが必要と感じた。
- ・地参知笑の具体的な例の情報がほしかった。
- ・「住む」から「暮らす」は何となくは分かるが、言葉の定義が分かりづらかった。

## (フォーラム第2部「宮前区を『住む』から『暮らす』まちへ」)

### ◇事例発表についての主な感想

- ・被災者支援からはじまったサロンですが、これからの高齢化社会には効果的なものとなるのではないかと。金銭的な支援のみならず、大切なのはひとりではないよと寄り添う気持ち。支援をうけるだけでなく、できることをやることも生きがいにつながる大切なことだと思う。そういうチャンスを与えながら、一緒に「暮らす」取組を期待する。
- ・「暮らす」とは一言では言い尽くせない。ここに「住む」だけでは、暮らせない。文化的であって、安全で、安心でき、人とのコミュニケーションが深まれる地域でなければと思う。
- ・タウンニュースはいつも楽しみに読んでいて、情報を入手している。宮前ロールケーキはタウンニュース（仕掛け）からできたこと知り、興味が湧いた。
- ・原田氏の話は地域に密着したお話だった故、これからも生の情報をいただければと感じた。
- ・齊藤氏の話聞いて、身をもって支援されていることに涙が出た。もっと住民の積極的な参加が必要なのではないかと。
- ・タウンニュースのように、第三者の立場で宮前区の「魅力」を語ってもらい、新発見ができた。
- ・タウンニュースの影響力は大きいと思う。ぜひとっつきにくいと思われがちな町内会のことなどをこれからも取り上げて行って欲しい。

### ◇宮前区を『住む』から『暮らす』まちにするためのアイデアについての主な意見

- ・あまり「暮らす」ということを強調しすぎると、実際に「住んで」いる川崎都民との意識のズレが生じるような気がする。(人の)コミュニティに参加するには、抵抗がある層も多いと思うので、もっと軽いコミュニティ(ネットや情報誌等)を進めてもらえればと思う。
- ・全ての人々が地域に溶け込んでいくことは困難だと思うが、多くを求めず、できることを少しずつ実行することだと思う。防災訓練なども時には半強制的に「場」に引っ張り出したりして、体験させることで顔の見える関係をつくっていく。
- ・みやまえ農産物直売所マップを活用した名産品づくり、レシピのPR。
- ・文化的であるためには、すばらしい人材の発掘が必要。
- ・子どもたちに宮前区の良さを知ってもらい、中・高・大学生となって、宮前区をアピールする側になってもらったらどうか。

- ・女性は子どもなどを通じて地域に出ている場合が多い。自治会などへご主人を送り出す努力が必要。
- ・小さなお子さんをもっておられる若いお母さんを積極的に支援する。仮に転出してもしずれ温かかった支援を思い出して戻って来る。
- ・最近の状況として、高齢者が息子や娘さんのそばにいたいという傾向にある。このことから、子育て支援を強化したらどうか。
- ・発想の転換が必要。地域の中で何か自分の価値観が分かるような出合いやきっかけがあれば暮らすにつながると思う。
- ・課題というマイナス思考ではなく、魅力というプラス思考で考えていきたい。
- ・魅力あるまちづくりが必要。
- ・宮前区に住み5年、「暮らす」まちとは感じておらず、これから子どものふるさとになりうる「まち」なのが不安で参加した。世帯をこえたコミュニティサロン、自然を体験できる場所（畑・田んぼ）が欲しい。
- ・一人ではなく、目的を同じくするグループづくりが必要ではないかと思う。
- ・近隣との絆が大切と感じている。どう実現するかがこれからの課題。自治会、町内会の中で取り組みが必要。
- ・「暮らす」ということは、単世帯だけでは実感できることではないので、地域の横のつながりを持てるようなきっかけを多くつくっていけば良いと思う。

#### **（第4期区民会議で取り上げてもらいたい地域の課題についての主な意見）**

- ・コミュニティバスの普及（区内空白地域の解消）。
- ・市民活動団体への支援（担い手の発掘）。
- ・区民会議を知ってもらう。
- ・今までの活動のサポート。
- ・「坂道」を通しての区民参加の活性化は強力に進めるべき。
- ・福祉の視点で取り上げたい。
- ・団塊の世代が多量に定年を迎えている。これらシニア世代の活性化の取り組みが必要。具体的なテーマを選んで、引き込んでもらいたい。まちづくりに活用するとか、グループ活動に取り組んでももらいたい。
- ・宮前区の30年の歴史を発信する取組。